

冬枯れの中、青山でも赤い山茶花と黄色のツワブキが可憐です。
2020年、今年もどうぞよろしくお願ひします。

UTOカシミヤでふるさと納税のご寄附を頂いた累計額が、10億円を突破しました。
ご寄附を頂きました全国の皆様へ、心より感謝申し上げます。

今年日本は、東京オリンピック・パラリンピックイヤー。
新国立競技場は会社のある表参道の隣駅の外苑前からすぐ近く。競技場からの歓声を聞きながら、たぶんTVで観るであろう、世界のアスリートたちの活躍が楽しみです。

アフガニスタンで殺害された中村医師。心よりご冥福をお祈りいたします。
あのような偉人が同じ日本人であることに誇りを持ちます。
「100件の診療所よりひとつの用水路」は、身をもって残された遺産だと思います。
中村医師の志を日本の公として引き継いでほしい。

【構想大学院大学】

* 岩手・北上をカシミヤの聖地に

新しい事業の発想・構想を目指す大学院大学。月刊「構想大学院大学」12月号の、クリエイティブのまち青山で、「長く愛される価値を届ける企業」。「希少価値の高いカシミヤに特化し、岩手で生産し青山で企画販売という、業界の常識を打ち破り、独自のビジネスモデルを築きあげている企業」として、取り上げて頂きました。



【虫食いに要注意】

返礼品の制作に頑張り、「世界に誇れるメイドインジャパンのカシミヤを世界に発信すること、頑張っている岩手の若い社員たちを誇りに思います。」
返礼品の制作に頑張り、「世界に誇れるメイドインジャパンのカシミヤを世界に発信すること、頑張っている岩手の若い社員たちを誇りに思います。」
返礼品の制作に頑張り、「世界に誇れるメイドインジャパンのカシミヤを世界に発信すること、頑張っている岩手の若い社員たちを誇りに思います。」
返礼品の制作に頑張り、「世界に誇れるメイドインジャパンのカシミヤを世界に発信すること、頑張っている岩手の若い社員たちを誇りに思います。」

* 防虫剤はニットのの上に置いてください *

食害虫には要注意です。
昆虫は春になると成虫になって出てきます。冬の間は幼虫かサナギです。日本の食害虫の中で最も一般的なヒメマルカツオブシムシは3〜4月に蛹化します。それまでは幼虫ですから、今の時機は盛んにウールを食べている頃です。
脅かすわけではありませんが、柔らかくて繊細なカシミヤは一番先にやられますので、防虫剤で必ず予防してください。

【ふるさと納税寄附累計、10億円を突破】
2014年11月、工場のある岩手県北上市のふるさと納税返礼品としてスタートしたUTOカシミヤ。北上市から、「高価なカシミヤで寄附頂くのは難しい」と思いますが、北上にはこんなに良いものがあるんだよ！と表明したいので、商品を出してほしい」という、ほぼ期待ゼロで始まったふるさと納税。

自治体、寄附者、事業者の三方良しのふるさと納税制度に賛同し全面協力で頑張ってきました。全国の多くの皆様に支持して頂き、19年末までに10億円を越える寄附を頂くことが出来ました。
当社の売上は大いに貢献してくれたふるさと納税。自画自賛ですが、657億円の市の税収増に貢献できたことは凄いいことだと思います。

膨大な数の年末のお申込み、休みにも出社して



【青山・表参道界隈】

UTOはこんな街から発信しています

リニューアルの渋谷駅

東京メトロ・銀座線の渋谷駅

吉祥寺から井の頭線で渋谷まで来て、銀座線に乗り換えて表参道の会社まで、30年以上も利用していた銀座線の渋谷駅が2020年1月3日にリニューアルしました。
東洋唯一の地下鉄として1927年に開通した銀座線。その渋谷駅は1937年に開業したそうですから、83年目からの新しいスタートです。

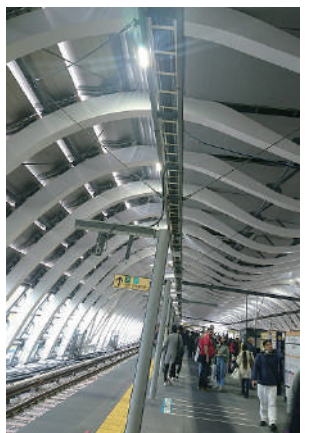
東京メトロ銀座線の渋谷駅は、東急東横店の3階にあるという珍しい駅ですが、とっても古い駅で、狭くて暗く、よくも今まで大事故が起きなかったものです。昨年末の28日から6日間全面運休にして、大リニューアルしました。

鉄道工事のニュースを見る機会がある度に、日本の鉄道工事のグレードの高さに感心させられます。最近では、小田急下北沢駅の地下化工事や、JRの高輪ゲートウェイ駅の線路切替工事など、よくもこんな大工事を短時間で正確にやっています。工事関係者の皆さんのご苦労に頭が下がります。

新しいホームは表参道側に移動して明治通りの上になりました。便利になる人。不便になる人。人それぞれあるんでしょうね。

今までは、降りるときは井の頭線、東横線とJR側への乗り換え口がありましたが、東横線は地下に移動してすっきり様変わり。JRへは今のところ以前と変わらずです。井の頭線はちよっと遠くなったようですが、浅草方面のヒカリ工側に改札ができ、

エスカレーターが
出来たのでかなり楽になりました。



ホームはかなり広くなりました！鳥式という上り下り列車がホームの左右に入ってくるスタイル。M字にうねったアーチ状の天井で、ホームに柱がないので明るく見通しが良くなりました。今のところホームドアはまだないのがちょっと心配ですが、オリンピックまでには出来るそうです。
以前は、始発電車は格納から出てきていましたが、今度は全ての電車が折り返し運転です。裏方の方はホームだけでなく大きな変更になっているんですよ。

5年前、マークシティが出来てから井の頭線からはエスカレーターになり、乗り換えがとっても楽になったという記憶はありますが、慣れるにつれて以前の乗り換えはどんな様子だったか思い出せません。東急東横店はまだあるので、伊東屋や靴修理屋さんはまだあります。3月からは、東急東横店自体の解体が始まるそうですからまだまだ変わるようですよ、素人には想像もつきません。

このメトロ銀座線の渋谷駅も慣れるとすぐに、「昔は暗くて狭かった」以外は忘れてしまうんですよ。話題になるのは、「エエッ！地下鉄が百貨店の3階にあったの!?!」、ぐらいかな？

カシミヤ100%・小物 天使のマフラー®

1312-3299 ¥13,200(税込)



UTOベストセラーアイテム「天使」シリーズのマフラー。
小ぶりのサイズが人気です。男性のスーツの襟元にもかさばらず、またお子様でも使いやすいサイズで、ご家族で使用できます。天使シリーズならではの軽さとぬくもりを感じるアイテムです。永く愛用するほどにふんわりと滑らかな風合いへと変化していきます。

カシミヤ100%・ 四つネクルーPO

1217-1219 ¥79,200(税込)



4本の異なる色のカシミヤ糸を撚り合わせて1本に仕上げた4糸糸を使ったセーターで、他にはないカラーが魅力。
素肌に着たいほど滑らかでふっくらした柔らかさ。
糸のキャラクターが引き立つシンプルなデザイン。ボクシーでリラックスしたシルエット。デイリーに使える上質なセーターです。

カシミヤ100%・ リップカラー・ウェストシェイプカーディガン

1112-2298 ¥68,200(税込)



印象的なリブ編みの襟がアクセントのVネックカーディガン。
ややウェストがシェイプされた女性の身体を美しく見せるシルエット。
袖口と裾は袋編みで、ブラウジングせずにすっきりと着こなせます。
スカートにもパンツにも合わせやすい着丈で、幅広く活用いただけます。

カシミアとニットの話 * (六十五)

南蛮渡来の女里弥寿(メリヤス)

大小と莫(な)く合うメリヤス

『莫大小』って、知っていますか？

これをメリヤスと読める人は業界人か、私より年配の方ではないでしょうか？

40年以上も前、私がニット屋になりたてのころです。

ニット製品を作った載っている会社の社長さんを紹介され、〇〇莫大小株式会社 代表取締役という名刺をもらったとき『莫大小！(バクダイシヨウ)ってなんだー』とビックリした思いがあります。

今でも〇〇メリヤスというニット製造の会社は多くあります。どうも私の場合、メリヤスと聞くところのシャツに代表される地味な下着を思い浮かべてしまいます。

ニットのことをメリヤスと呼ぶのもかなり古風な呼び方ですが、さすがに莫大小は今ではあまり使われない表記です。

メリヤスとは、ポルトガル語でメイアス。スペイン語でメデイアスと言って靴下のことだそうです。ニットが日本に伝わった時の詳しい事情は解っていないようですが、メリヤスと聴いた人が『女利安』とか『女里弥寿』と当て字をしたんだいよ。

日本に西洋人が現われたのが1543年。ポルトガル船が鹿児島の子島に漂着した、いわゆる鉄砲伝来ですね。

それ以後1639年に徳川幕府が鎖国をするまで度々ポルトガル船が訪れ、49年にはスペインのイエズス会宣教師のフランシスコ・ザビエル等が日本を訪れていますのでその頃に伝わったものでしょう。と言うことは伝来者はポルトガル人かスペイン人でしょう。

宣教師のロイス・フロイスが織田信長にヨーロッパのいろんな産物を献上していたようですから、その中にメリヤスというニットの靴下が入っていたかも知れませんね。

その頃の風俗を描いた南蛮屏風絵の中に描かれた西洋人。ニッカポッカのようなパンツの下から色とりどりの長靴下が見られます。これはまさにメリヤスといわれるニットの靴下でしょう。

鎖国の間も長崎の出島では靴下が編まれていたそう。長崎土産として持ってはやされ、江戸時代末期にはかなり普及し武士の内職として盛んに編まれていたそう。貧乏武士の内職は傘の張替えや代書屋というイメージがあるんですが、ちょんまげ姿のお武家さんが編み棒でニットの靴下を編んでいるのを想像するだけで笑ってしまいます。

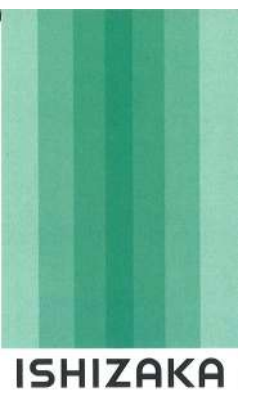
その頃の文献に『めりやすというものは、のびちぢみありて、人の腕の大小あれど、いづれもよくあうものなり。さらば大小と莫(な)く合うという義にてあるべきや』と記述があるそう。ニットの特性を表した莫大小をクイズみたいメリヤスと読ませてしまふ。日本語って面白いですね。

幕末の寵児で、袴に靴をはいていた坂本竜馬の写真がありますが、新らし物好きだった竜馬は、きつとあの靴の中にはメリヤスの靴下を履いていたんだらうなあと思像すると、ちよつと嬉しくなります。

信長も竜馬もメリヤスをはいていたらどうと言つのは私の希望的観測ですが、あの天下の副將軍の水戸光圀が靴下を履いていたのは事実のよう。七足の靴下が遺品として発見されています。さすが黄門様、七足の靴下のうち三足は絹製の長靴下だったそう。



石坂産業をご存知ですか？



産業廃棄物の98%を資源に変えている石坂産業を知って、こんな会社があるんだ！と感動しています。最初、石坂産業のことを、TV東京のカンブリア宮殿で知りました。以来、夫婦で隠れファンをしています。今年1月に会社を見学することが出来ました。

1999年、埼玉の葉物野菜からダイオキシン検出の報道がありました。結論は全くの報道ミス。しかし、大騒動に発展。石坂産業はダイオキシン発生を防ぐために最新鋭焼却機を17億円で導入したばかり。巨大な設備を持つがゆえに石坂産業は騒動の矢面に立たされ排斥の署名運動にまで発展します。

そんな中、入社したばかりの長女の現社長が、落胆の父親からこの仕事を始めた純粋な志を聞き、「自分に社長をやらせてほしい」と父親の社長に談判し、火中の栗を拾う事になったのです。

改革に着手。社内を清潔にし、挨拶をすることから始め、巨額の投資をした焼却を辞めリサイクルに大転換。当時の社内は荒れていて、改革に反対の古参の4割も社員が辞める悲惨な状況からの出発。苦節二十年。

現在の石坂産業は、外に埃が出ない完璧な建物の中で、がれきは破砕され、木材、金属は分別し、最後は見事なまでの製品にされて販売されています。トラックは一般道路に出る前にタイヤなどを雨水を貯めたシャワーで洗浄されて公道に出るとい徹底振ります。

訪れた工場の綺麗なこと、里山と森の美しいこと、社員さん達の表情の良いこと。防塵マスクをされて仕分けの作業をされている社員の方と目が合った時に、素晴らしい笑顔で答えてくださった時、「あんな大変な作業の途中なのに」と、感動まで覚えました。

森が暗くて綺麗でないから不法投棄する。それなら会社の周りの森を綺麗にと始めた里山プロジェクト。今では里山に昆虫や子供たちが集まります。

まるで、世間知らずの純粋な学生が理想を描いた、「世の中の産廃ゴミを資源にして、石や木材や金属はそれぞれの商品として販売し、会社の周りの森の木々を綺麗にするときに出る落ち葉などは堆肥にし、その堆肥で無農薬の野菜を育て、美味しい食事を提供する素敵なしストラ」。そんな、「言うは易く行は難し」、それを現実に実践している会社なんです。

願わくば、日本中に石坂産業を広めて頂き、静脈側のエクセレント企業として巨大企業になってほしいと願いつつ、とっても爽やかな気持ちで帰ってきました。

世界のホテルを旅する(六十五)

元 旅行屋のお勧め インターラーケン・スイス ホテル・メトロポール

1970年代、旅行屋の頃、ヨーロッパのツアーを作るとき、パリとフィレンツェが好きでよくこの2つの街を旅程に組み込んでいました。イタリアとフランスの間の移動は私の好きな鉄道です。

イタリアからスイスに抜けるときのルートで多かったのが、シンプロントンネルルートでした。ここは、日本の大清水トンネルが出来るまでは世界で一番長いトンネルでした。

ミラノから湖の美しい街々を過ぎるとアルプスの傾斜がきつくなると、アルプスを貫くシンプロントンネルを抜けると屏風のような深い谷が続きます。ぱっと明るくなるとシュピーツという小さな駅に着くと、「スイスに来た！」という印象を強くしていました。

この駅はスイス国鉄の三叉路のような駅で、多くの列車がこのシュピーツ駅で15分ぐらい停車してました。ちよつと一息という感じで駅舎を出ると眼下に素晴らしい湖の景色が広がります。この駅に着くと必ずこの景色を見ないと気が済まないほど楽しみな眺めでした。

この湖はツーン湖と言ってこの湖に沿って東に行くとい今回のインターラーケンという街に着きます。

インターラーケンとは、湖の間という意味です。街の東側にプリエンツ湖という湖があり、ツーン湖とプリエンツ湖の間にある街なんです。

この街からアイガーやユングフラウ等のアルプスを巡る登山鉄道が出ています。夏場はこの奥のグリーンデルワルドという牧歌的な村に泊まるのが多かったのですが、2度ほどこの街に泊まり、その2回ともこのホテル・メトロポールに泊まりました。古く低層の建物が多いこの街では一番背の高い建物で、街中の現代的な建物です。

本音はグリーンデルワルドのような山麓のスイスらしいところに泊まりたいのですが、いつも予約が取れないのです。どうしてなんだろうと思ひ、現地のインバウンド業者に聞いたら、冬のスキーズンには多くのホテルが週単位での予約しか受けないのでそう。週単位などは想像もしてなかったので新鮮な驚きでした。



この街には世界的にも有名なヴィクトリアというホテルがあります。そのホテルの前に緑の広場がありユングフラウが眺められます。この眺めが消えないように、この芝生の広場には建物を建てないように決めているという事を聞きました。素晴らしい考えですね。